

一声社: TEL03-6676-2179/FAX03-6326-8150

閑話休題—危うし！紳士服詐欺③

A 君。2 着で 15 万円じゃ申し訳ないよ。どうする？ 2 着で 10 万円にしようか。おいっ！ 会社で言うなよ、2 人だけの秘密だぞ。いやね、会社に「卸値を割って売りました」なんて報告できないのよ。いや、おじさんは大丈夫だよ。そこはね、色々あるから、やり方がね。10 万円なんてない？ う～ん。そうかあ。8 万円ならどう？ もともと 2 着で 24 万円だよ、言っちゃなんだけど。10 万円でも半値以下、8 万円なら 1/3 じゃない。

どうせ買わなきゃいけないものだからねえ、背広は。もちろん他で買ってもいいんだよ、ただし正規の値段でね。どうだろうなあ？ それ。みすみす損する事になるけどねえ。惜しいねえ。

そうだ！ ちなみに、貯金はある？ バイト代を遊びに使ったりしないでしょ、君は。遊ばないで、コツコツ貯金してるよねえ。はっきり聞くけど、貯金はいくら？ いや、その貯金をどうかしようなんて考えてないよ。額によって、色んな工夫をアドバイスできるからさ。即金だったり、月賦だったり、いろいろ使い分けてるから」

貯金…この単語がまずかった。こちらの心理を読みつつ、先手先手で流れを作り、まさにその流れに乗せられていたヨネやんを目覚めさせたのは、「貯金はいくら？」という言葉だったのだ！

「貯金？ そんなんいくらあるかなんて言えますかいな。そこを聞くのはおかしい。絶対に言えへん！」

「まあまあ、そう怒らないで。僕らもよかれと思って提案してる訳だよ。君には特別

に配慮したいと思ってね。いや別に、他で売れるんだよ、この服は。モノが良いから。君のその態度もちょっと問題だよ。僕は君よりもかなり年配なんだから、その口の利き方は失礼だよ！ いや、これも老婆心からね、君の為を思ってる事だから。貯金額で気分を害したのなら謝るよ。君も少し冷静になってもう一度考えてみて」

「いや、もう無理。背広は必需品？ ジャージで過ごしますわ！ 一生ね！」 「そこまで言うなら、下りろ！ なんだ！ 人が折角親切に言ってやってるのに。いいか！ よく聞け！ 大人を舐めるんじゃない！」

「言われんでも降りるわ！ 何？ 時間取らせたから 2 人分の時給を払え？ 誰が払うか！ こっちが頼んだんか？ あんたが無理に乗せたんやろ！」

車を降りてナンバーを確認しようとした途端、急発進して走り去ったその車。その翌日、生協の入り口に 1 枚の張り紙が。

「生協の業者を名乗った紳士服の詐欺被害が発生しました。2 人組の男で、1 名は 40 代、1 名は 20 代。生協とは一切無関係です」。

この貴重な経験から学んだ事。プロの詐欺師のトークはすごい！ 着る服はいつも同じ、毎日バイトで食事は貧相、電気製品は一切持っていないヨネやんが、8 万円という途方もない金額を出そうかな？ と一瞬にしろ思った訳やから。おじさんと若い衆 2 人組の絶妙なトークと掛け合い、こっちの弱みや心理を読んだ常に先手を打つ展開のうまさ、あくまでソフトに、ここぞという時はドスを利かせて…。

教訓＝プロの詐欺師とは一切話したらアカン。土俵には乗らない。それしかない。